

浜松市はままつ夢基金事業費補助金事業完了報告書

1 団体名、事業名、補助金額等

(1) 団体名	特定非営利活動法人 浜松日本語日本文化研究会
(2) 事業名	外国人児童生徒への日本語・教科学習支援事業
(3) 事業費総額 および補助金 交付決定額	事業費総額 558,000 円 補助金交付決定額 7,300 円
(4) 実施事業の 概要	・ 週末に地域の施設で学習会を開き、漢字や文型などの日本語指導や教科指導、学校の課題に取り組む子どもへの助言助力をする。 ・ 地域の保育施設や学校から日本語や教科学習の支援の必要な外国人児童生徒への支援要請を受け、指導者を派遣する。

2 事業の目的について

(1) 地域の課題	・ 市内では、日本語や教科学習の指導が必要な児童生徒が増えているが、市の行っている「日本語・学習支援事業」だけでは十分な支援ができていない。 ・ 小中学生が学校以外で日本語や教科を学ぶ場所が少ない。 ・ 幼稚園や保育所で日本語指導のできる専門家が少ない。 ・ 日本の小中学校を卒業しても、社会生活に必要な識字能力が十分に身に付いていない地域住民が増える。
(2) 事業の目的・必要性	・ 小学校入学前までに日本語の音韻認識力を高め、語彙を増やす。 ・ 外国にルーツをもつ子どもたちの日本語力や自己効力感を高めることで学ぶ力を伸ばし、将来、地域社会の一員として活躍できるようにする
(3) 事業の先進性と独自性	・ 外国につながる子どものいる保育施設や小中学校からの支援要請に即応できる。 ・ 日本語や学習指導に精通した指導者や多文化共生に理解のある地域のボランティアによる週末学習支援である ・ 保護者にも日本の教育制度などについてアドバイスができる。

3 事業の実施内容

(1) 事業内容	・ 光が丘中学校の生徒 1 名に 61 時間、天竜中学校の生徒 2 名に計 62 時間の教科指導を行った。 ・ 天竜協働センターに於ける週末の学習支援では、参加を希望した小中学生を広く受け入れ、日本語や教科を学びたい児童生徒に学習の機会を作った。また、保護者から現在の悩みなどの聞き取りを行い、必要に応じてアドバイスをした。 ・ 日本語指導者を白脇幼稚園と与進幼稚園に派遣した。白脇幼稚園では、延長保育の時間に 1.5 時間の日本語指導を、与進幼稚園では、保育時間中に 1 時間の取り出し日本語指導を行った。
(2) 実施場所	浜松市天竜協働センター 光が丘中学校、天竜中学校、白脇幼稚園、与進幼稚園
(3) 対象者	浜松市内の小、中、高校や保育施設に通学・通園する外国にルーツを持つ児童生徒で、日本語学習支援が必要な児童生徒

(4)実施体制と 事業スケジュール	①人員配置・ 役割分担等	・事務局 1 名 事業全体の統括、指導者の募集、連絡、配置、指導のアドバイス、その他関連事務 ・教室コーディネーター（和田） 教室の開催、実施、まとめ （児童生徒の募集、学校との連絡、児童生徒の親との連絡、指導者との連絡、内容の確認など） ・指導者 9 名 天竜協働センター：日本語及び算数・数学や国語などの教科学習支援 中学校：国語・数学などの取り出し支援 幼稚園：日本語を使ったカード遊びや手遊びなどの活動、絵本の読み聞かせ ・ボランティア（地域の有志）2 名 天竜協働センターでの教科学習補助
	②事業期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日
	③実施スケジュール	・天竜協働センター：隔週の土曜日の午後（全 20 回） ・小中学校：1 学期～3 学期 ・白脇幼稚園、与進幼稚園：10 月～2 月

4 事業の目標と成果

(1)事業の目標と成果の確認	① 事業の目標とその成果の確認方法	・天竜協働センターでは、一人ひとりに出席カードを持たせ、各回の活動終了後に振り返りを記入させる。 ・小中学校支援では、担当教諭と連携し、支援対象の児童生徒の日本語力や教科理解を確認したり、定期試験の結果を見たりする。 ・幼稚園では支援終了後、語彙力調査を行い、支援開始前の結果と比較する。
	②目標達成のための工夫	・協働センターで行った学習会では、送迎の機会を活用して、保護者に学習の様子を伝えたり、高校進学に向けてのアドバイスをしたりした。 ・学校での学習と関連付けるため、学校で学習したプリントやノートなどを一緒に見ながら学習を進めるとともに、その子なりの頑張りを認め、自己肯定感を持たせるよう努めた。 ・中学校では教科担当教諭や学級担任と連絡を密にとり、支援対象生徒のニーズに合った教科学習支援を行った。 ・幼稚園では、支援開始前に語彙力調査を行い、子ども達の実態を掴んだ。昨年度作成したカリキュラムを子どもの実態に応じて修正した。
	③事業終了後の展開	・子どもたちの日本語力を伸ばす教材の開発や活動の在り方の研究を継続する。 ・これまでの経験を活かし、他地域にも活動を広げ、子どもたちのニーズに応じた学習支援を行う。